

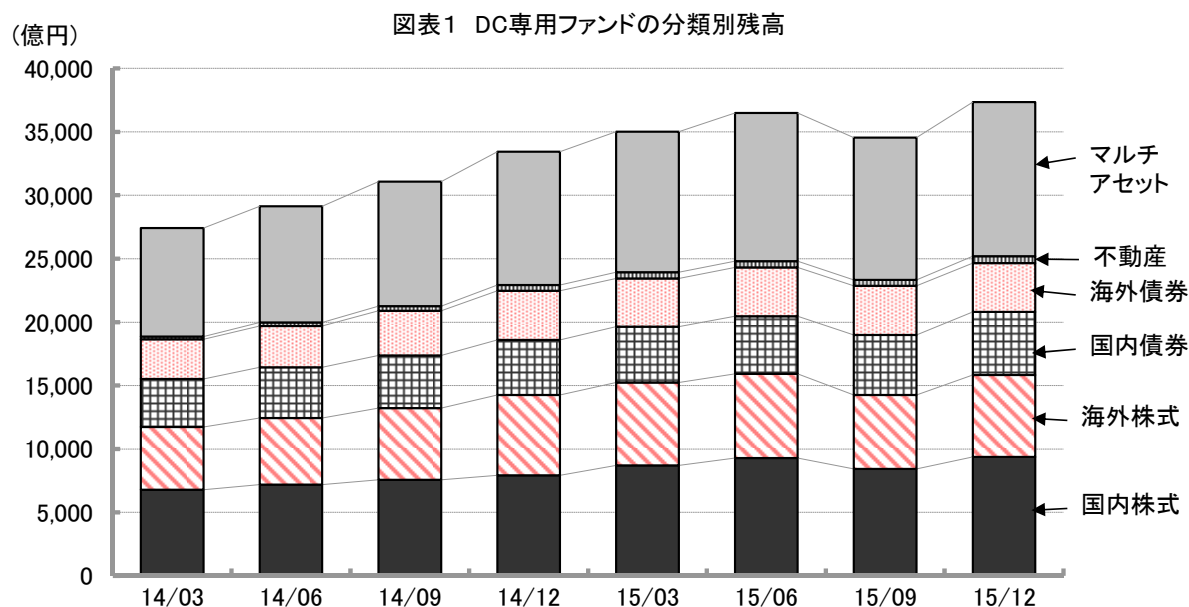
確定拠出年金専用ファンドの動向(2015年12月)

2015年度第3四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ2,813億円増加し、3兆7,351億円になりました。収益率をみると国内株式型や海外株式型ではそれぞれ+10%近く上昇しています。また、2四半期連続で低迷していた不動産型も+6.3%と堅調に推移しました。資金流入をみるとマルチアセット型、国内債券型などを中心に比較的多額の資金が流入しました。また、今年度に入りボラティリティが高まっている国内株式型と海外株式型へも合計で200億円近い資金が流入しています。

確定拠出年金専用ファンドの残高

2015年度第3四半期(10月~12月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信¹の残高は前四半

期に比べ2,813億円増加し、3兆7,351億円になりました。前四半期の残高の減少分を取り戻し、再び過去最高額を更新しています(図表1)。



出所)野村総合研究所

¹ DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。

ファンド分類別に残高の推移をみると、ほぼ横ばいであった海外債券型を除き、他の分類では増加しています(図表2)。中でもマルチアセット型や国内株式型ではそれぞれ900億円以上残高が増加しています減少しています。また、海外株式型でも600億円以上残高が拡大し、さらに国内債券型でも200億円以上残高が増加しています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の32.6%を占めています。これに次いで残高の多い国内株式型は25.1%ですので、上位2タイプだけで全体の57.7%を占めていることとなります。マルチアセット型の割合は2013年12月の30.8%を底に、国内株式型は2014年12月の23.7%を底に、それぞれ拡大しています。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式

型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ42.4%、23.6%となり、前の四半期に比べて、前者は1.1%増加し、後者は1.3%減少しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、38.4%であり、前四半期から0.3%増えています。逆に海外資産を中心に運用するファンドは前四半期から0.4%減少し、27.6%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、74.4%となり、ほぼ4分の3を占めています。

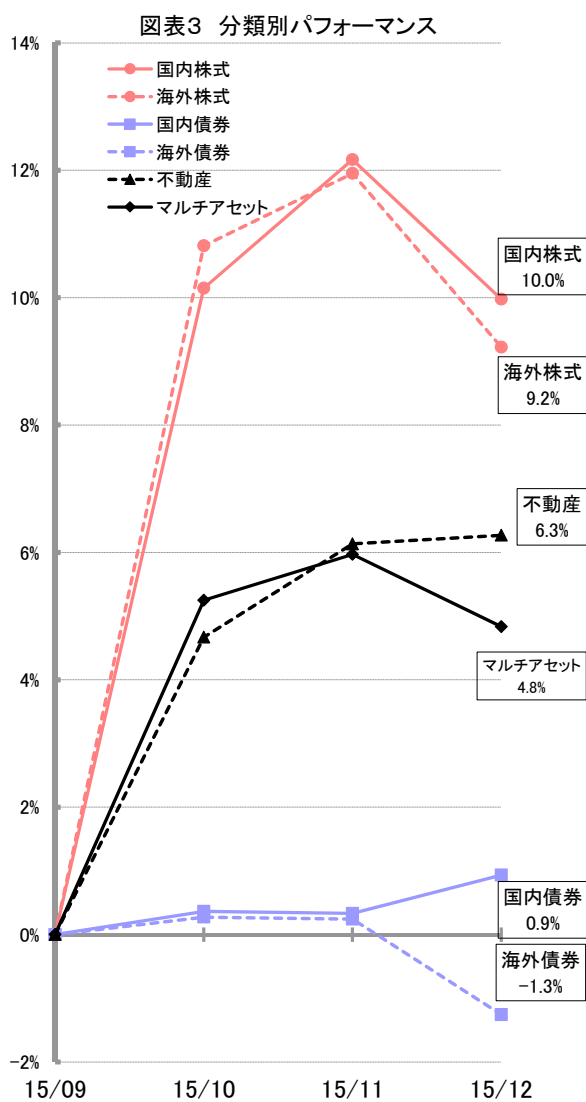
図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	14/03	14/06	14/09	14/12	15/03	15/06	15/09	15/12
国内株式	6,788	7,190	7,573	7,918	8,722	9,295	8,437	9,385
アクティブ運用	2,666	2,822	2,969	3,082	3,350	3,563	3,189	3,551
パッシブ運用	4,122	4,368	4,604	4,836	5,372	5,732	5,248	5,834
海外株式	4,947	5,255	5,665	6,344	6,528	6,626	5,825	6,458
アクティブ運用	1,256	1,316	1,379	1,531	1,583	1,578	1,385	1,524
パッシブ運用	3,691	3,939	4,286	4,814	4,945	5,048	4,440	4,933
国内債券	3,776	3,995	4,153	4,347	4,397	4,548	4,734	4,954
アクティブ運用	600	619	643	674	681	691	712	732
パッシブ運用	3,176	3,375	3,510	3,673	3,716	3,856	4,022	4,223
海外債券	3,125	3,245	3,505	3,866	3,784	3,839	3,857	3,861
アクティブ運用	438	448	480	526	519	518	517	515
パッシブ運用	2,687	2,797	3,025	3,340	3,266	3,321	3,340	3,346
不動産	229	287	355	451	498	504	482	534
マルチアセット	8,551	9,150	9,839	10,512	11,093	11,691	11,203	12,159
バランス型	8,242	8,747	9,251	9,826	10,328	10,852	10,334	11,119
ターゲットイヤー型	133	142	151	162	183	193	193	207
アセットアロケーション型	176	262	437	524	582	645	676	832
残高合計	27,418	29,121	31,090	33,439	35,023	36,503	34,538	37,351
残高割合								
国内株式	24.8%	24.7%	24.4%	23.7%	24.9%	25.5%	24.4%	25.1%
海外株式	18.0%	18.0%	18.2%	19.0%	18.6%	18.2%	16.9%	17.3%
国内債券	13.8%	13.7%	13.4%	13.0%	12.6%	12.5%	13.7%	13.3%
海外債券	11.4%	11.1%	11.3%	11.6%	10.8%	10.5%	11.2%	10.3%
不動産	0.8%	1.0%	1.1%	1.3%	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%
マルチアセット	31.2%	31.4%	31.6%	31.4%	31.7%	32.0%	32.4%	32.6%

出所)野村総合研究所

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。



出所)野村総合研究所

分類別パフォーマンスの推移

図表3は2015年度第3四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。8、9月の2ヶ月間で14%以上調整した国内外の株式相場は、10月には反騰し10%以上値上がりしました。12月に再び調整したものの小幅にとどまり、国内株式型と海外株式型の四半期の収益率はそれぞれ+10.0%、+9.2%となりました。直近の2四半期のパフォーマンスが連続してマイナスとなった不動産型も、国内REIT市場が堅調に推移したこと等により、当四半期の収益率は+6.3%になりました。国内外の株式と債券を組み込んだマルチアセット型も堅調な株式相場に支えられ、パフォーマンスは+4.8%となっています。

これらの分類とは反対に四半期の収益率がマイナスになったのは海外債券型です。12月に入って米ドルが対円で2円程度の値下がりしたことなどにより、海外債券型の四半期のパフォーマンスは▲1.3%と下落しています。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2014年度第3四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額-解約額)の推移を表したものです。

当四半期の純流入額は前年度の第3四半期

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	14/10~ 14/12	15/01~ 15/03	15/04~ 15/06	15/07~ 15/09	15/10~ 15/12
国内株式	-107	31	54	367	103
海外株式	-11	93	14	12	96
国内債券	109	73	161	154	176
海外債券	31	35	47	53	54
不動産	37	47	24	6	21
マルチアセット	99	256	385	250	412
資金純流入合計	158	535	685	842	861

出所)野村総合研究所

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

に比べ²、703億円多い861億円となりました。2015年に入ってから四半期の資金流入は毎期500億円を超え、1年間では2,923億円となり、年間の資金流入としては最高額を更新しています。

四半期の資金流入額を分類別にみると、マルチアセット型への流入が412億円と最も多くなっています。この額は同分類への資金流入として

は過去最高額となっています。マルチアセット型に次ぐのが、国内債券型で、176億円が流入し、同分類としては比較的多額の資金が流入しています。四半期の収益率が高かった国内株式型と海外株式型のへ資金流入は合計で200億円近くに達しています。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集: 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、
野村資本市場研究所、野村総合研究所

発行: 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター
(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991

FAX: 03 (6703) 3981

Email: nenkin@jp.nomura.com

— 次号のお知らせ —

次号は

2月8日(月)

発行予定です。

² 資金流入額には季節性があると考えられるため、前年同期と比較しています。

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されました御客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。

野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合は、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会